

2020 年度 新収蔵作品展

Present for you

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

2021 年 1 月 5 日（火）～ 2 月 21 日（日）

町田市立国際版画美術館 企画展示室 2



28 ヨルク・シュマイサー「カンポ広場、シエナ」

◇凡例

各データは次の順に記載しています。

作者名、生没年、題名、制作年、技法、寸法（mm）

作家名（ローマ字）については、姓を大文字で表記しています。

作品 24～39 は英語タイトルを併記しています。

ごあいさつ

1987 年 4 月の開館以来、町田市立国際版画美術館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。また、初心者から経験者まで幅広い層を対象とした実技講座や、各種の版画制作用具を備えた工房とアトリエを一般に開放し、「見る楽しみ」と「作る楽しみ」を総合的に紹介しています。

当館のこうした活動を支えるコレクションは、「古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できるコレクション」を目指し、継続的な調査・研究活動のもとに形成されてきました。その活動を評価していただき、近年は寄贈作品の点数も増加しています。

本展では 2019 年度下半期から 2020 年度上半期にかけて新たに収蔵された 1377 点のなかから、約 90 点の作品・資料をご紹介します。2018 年に当館でも回顧展を開催した「旅する版画家」ヨルク・シュマイサー（1942-2012）の作品や、戦後版画運動に関わった鈴木賢二（1906-1987）の作品と旧蔵品など、多彩な版画がコレクションに加わりました。

「新収蔵作品展 Present for You —わたしからあなたへ／みんなから未来へ—」とは、当館に収蔵される作品が、人から人へと伝えられてきた貴重な文化遺産であるとともに、市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。当館では今後も継続して収集・展示活動につとめ、コレクションを大切に守り伝えていきたいと考えています。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

2021 年 1 月

町田市立国際版画美術館
館長 大久保純一

1 『前賢故実』巻之六 版木

江戸時代後期から明治元年頃 237×473

菊池容斎（1788-1878）著『前賢故実』巻之六の版木です。『前賢故実』（全10巻）は、571名の歴史上の人物の肖像とその略伝を記した伝記集。江戸時代後期から制作がはじまり、明治元年に後序を備えて全巻が完成したとされます。明治期には多くの絵師が、歴史画制作のための参考資料として本書を用いました。

この版木は、第6巻の43丁と44丁（「丁」は頁数を表します）にあたる部分で、一枚を有効に利用するため、両面に文字と絵が彫られています。彫られているのは、「源師頼」と「小大進」の肖像。これらを印刷し、中央で折りたたんで綴じると、袋綴じの和本となります。全面が墨で覆われ使い込まれていますが、緻密で正確な彫の様子をみることができます。

岩崎智子氏より寄贈

2 日本版画協会同人自刻作品

『日本女俗選』（全10点）

昭和21年（1946）

木版 345×270（版画集サイズ）

前川千帆（1888-1960）

MAEKAWA Senpan

2-1 舞妓

2-2 大原女

2-3 七夕祭

恩地孝四郎（1891-1955）

ONCHI Koshiro

2-4 湯がえり

2-5 花時

川西英（1894-1965）

KAWANISHI Hide

2-6 港の女

関野準一郎（1914-1988）

SEKINO Jun'ichiro

2-7 東北のみろり端

2-8 輪髪

斎藤清（1907-1997）

SAITO Kiyoshi

2-9 路刈る乙女

2-10 漁村の女

『日本女俗選』（全10点）は、日本版画協会の版画家5人が参加し、優美さと独自性をもち、世界的に関心が高い日本の伝統衣装に着目して制作出版した版画集です。「都と鄙」、季節、職業、生活に亘って特色ある美しい衣装を選んでモチーフとしています。英語の解説付きのタトゥーにおさめられており、制作出版は海外への販売が目的の一つでした。『のらくろ』の作者である田河水泡（高見澤路直）の旧蔵で、摺りは親戚にあたる高見澤木版が担当しています。

高見澤邦郎氏より寄贈

関野準一郎（1914-1988）

SEKINO Jun'ichiro

3 老婆

昭和50年（1975）木版 475×368

4 石坂洋次郎

昭和50年（1975）木版 495×345

関野準一郎は、青森県出身の版画家。東奥美術展、日本版画協会、文展への入選を経て、25歳で上京。創作版画の先駆者・恩地孝四郎に師事し、彼が主宰する勉強会「一木会」の主要メンバーとしても活躍しました。

戦後になって関野は、親しい友人や家族、著名人をモデルとする作品を発表するようになりました。新収蔵品の2点はいずれも、1975年に制作された木版による人物画です。《老婆》（作品3）は、沖縄の伝統的な入れ墨ハジチを入れた女性の姿を、ユーモラスかつ色彩豊かに表現した作品。また《石坂洋次郎》（作品4）では、同系色のグラデーションで有名小説家の表情が巧みに表されています。

三田泰永氏より寄贈

鈴木賢二（1906-1987）

SUZUKI Kenji

5 麦秋

昭和 34 年（1959）頃 木版 1060×494

6 くすりかけ

1950 年代後半－1960 年代前半 木版 915×910

7 署名

昭和 35 年（1960） 木版 915×910

8 [バーミングハム運動]

昭和 35-38 年（1960－63） 木版 519×362

9 交渉

昭和 37 年（1962） 木版 650×970

鈴木賢二は栃木県栃木市出身の版画家、彫刻家。栃木中学校を卒業後、1925 年に東京美術学校彫刻科に入学しますが、プロレタリア美術運動に参加して退学。1931 年にはプロレタリア美術研究所に入所します。戦後は 1946 年に日本美術会関東支部設立と同時に支部長に就任、1947 年には刻画会を結成し中国木刻の影響で本格的に版画制作に取り組みます。1949 年の日本版画運動協会設立にも携わり、戦後版画運動のなかで主導的な役割を果たしました。1955 年に益子に移り住み、《くすりかけ》（作品 6）など農家や陶工を描いた作品を数多く発表。1960 年の上京後は《署名》（作品 7）など精力的に大型作品を制作し、独自の立体感をもつ造形を展開します。インドネシアやロシア、東欧との国際交流にも携わり、多面的に活躍しました。

2018 年度に続き 2019 年度も鈴木賢二氏ご遺族から鈴木賢二作品と、戦後版画運動に関わった作家の作品と資料をご寄贈いただきました。

箕田源二郎（1906-2000）

MITA Genjiro

10 [漁民]

1950 年代 木版 390×483

小口一郎（1928-1979）

KOGUCHI Ichiro

11 傷痕軍人

昭和 26 年（1951） 木版 281×355

12 戦盲者

昭和 26 年（1951） 木版 249×218

小口一郎は栃木県小山市出身の版画家。1946 年に創立したばかりの日本美術会の会員となり、日本アンデパンダン展に第 1 回から没年まで出品しました。鈴木賢二、上野誠らとの交流から木版画を始め 1951 年に日本版画運動協会会員となり、1955 年に小山市で 4 B 美術研究会（4 B 美術サークル）を設立。サークルを活発に行い、公民館建設運動に携わるなど、地域に密着した文化活動の中心的役割を果たしました。

《傷痕軍人》（作品 11）は日本版画運動協会の作品が 1952 年にニューヨークで紹介された時に展示されたなかの一枚です。小口は後に足尾銅山鉍毒事件を描くことをライフワークとし、政府や大企業に翻弄される人々を描き続けました。

村上暁人（1911-1998）

MURAKAMI Gyoujin

13 米国黒人ラングストン・ヒューズの詩

昭和 27 年（1952） 木版 175×218

14 土地を掠奪された農民

昭和 27 年（1952） 木版 300×191

村上暁人は広島県因島出身の版画家。本名は芳夫。地元の日立造船に勤めた後、神戸市に出て国鉄鷹取工場に勤めながら新美術協会に属し、日本画、油絵を中心に制作を続けました。陸軍に召集されビルマ（ミャンマー）に渡り、九死に一生を得て復員した後は「暁人」と名乗り、版画に転じました。日本版画運動協会でも熱心に活動するとともに棟方志功にも私淑。明石市を拠点に生涯にわたって漁師や農家の働く姿や子どもたちを描き続けました。

出品作は戦後版画運動に熱心に関わった時期の作品です。《米国黒人ラングストン・ヒューズの詩》（作品 13）はハーレム・ルネサンスの代表的な詩人の肖像を描き、《土地を掠奪された農民》（作品 14）は米軍が北富士演習場を拡張したことで土地を接収された農民が主題です。

滝平二郎 (1921-2009)

TAKIDAIRA Jiro

15 『裸の王様』

昭和 26 年 (1951) 木版、謄写版

352×253 全 18 点

16 『むすめたち』

昭和 28 年 (1953) 木版 277×220 全 4 点

17 [デッサン 母子]

昭和 21 年 (1946) 木炭 408×295

18 母子

1940 年代後半 木版 159×128

滝平二郎は茨城県新治郡玉里村（現・小美玉市）出身の版画家、切り絵作家。茨城県立石岡農学校在学中、柳瀬正夢らの諷刺漫画に強い関心を寄せ、茨城県漫画派集団に参加し鈴木賢二や飯野農夫也と交流、木版画を始めました。1942 年に造型版画協会展に出品するも、翌年には応召し沖縄で終戦を迎えました。1946 年に日本美術会に入会し、翌年第 1 回日本アンデパンダン展に出品。刻画会に参加したのち、1949 年には日本版画運動協会創立に参加します。

1951 年には木版画と謄写版による絵本『裸の王様』（作品 15）を私家版で刊行しました。童話に仮託した権力諷刺を意図する本作は好評を受け、中国語にも翻訳されました。絵本第一作目にして高い完成度を誇っており、後に切り絵と絵本で大衆的な人気を得る滝平の片鱗が見えます。

汪刃鋒 (1918-2010)

WANG Renfeng

19 農民印象

1930 年代後半～1940 年代前半

木版 261×366

汪刃鋒は中国の版画家。魯迅が始めた木刻運動に呼応して 1938 年から木刻画の創作を始めました。社会主義リアリズムに基づく木版画を創作。日中戦争下の人々や、生活に苦しむ農民や労働者をテーマとした作品で知られ、《農民印象》（作品 19）は代表作の 1 つです。

1947 年から全国を巡回した中国版画展や、日本で初めて中国の木刻を一堂に集めた画集である『中国木刻集』（1950 年）でも中国木刻の重要な作品として紹介され、日本の木版画家に大きな影響を与えました。

神戸新集体版画協会 編集・発行

Edited and Published by Kobe Shinsyutai Hanga Kyokai (Kobe New Group of Print Association)

20 『華僑児童木刻散集』（第一輯）

昭和 21 年 (1946) 251×75

フラン・マズレール（麥綏萊勒）(1889-1972) 作
Frans MASEREEL

魯迅 (1881-1936) 序

LU Xun

21 『木刻連環画面 一個人的受難』

昭和 26 年 (1951) 12 月 (第 5 版)

146×116

刻画晴耕会

Kokuga Seikou Kai

22 『刻画晴耕』4 号

昭和 23 年 (1948) 1 月 10 日

木版 227×302

23 『刻画晴耕』5 号

昭和 23 年 (1948) 3 月 20 日

木版 227×302

5～23 鈴木解子氏より寄贈

ヨルク・シュマイサー (1942-2012)

Jörg SCHMEISSER

ドイツ出身の版画家。ハンブルク造形美術大学でパウル・ヴンダーリッヒにドローイングと銅版画、リトグラフを学びました。1968 年、京都市立芸術大学留学を機に、日本に 4 年間滞在。木版画や水墨画を試み、1972 年ドイツ帰国後も定期的に日本に滞在し、制作と発表を行いました。1978 年、キャン

ペラ美術学校（現オーストラリア国立大学）に招かれ、以降キャンペラを活動の拠点としました。

「旅する版画家」と呼ばれ、ヨーロッパ、アジア、そして南極まで、世界各地を旅した経験と、その場所についての深い思索を、卓越した素描力と版画技術によって多色刷りの銅版画に表現しました。2018年には当館で大規模な回顧展を開催しています。

24 『エズラ・パウンド「追放者の手紙」挿絵』

For Ezra Pounds Exile's Letter (Li Bai)

1969年 木版 550×635（紙） 全7点

24-1 李白による詩

Lines from Ezra Pounds Exile's Letter
(Li Bai)

24-2 〔蝶〕 [Butterfly]

24-3 〔野〕 [Field]

24-4 〔車輪〕 [Wheel]

24-5 〔武人〕 [Soldier]

24-6 〔宴〕 [Reception]

24-7 〔手紙を送る〕 [And send it]

シュマイサーは1968年に伝統木版画を学ぶ目的で京都に留学、しかし日本の大学でそうした指導は受けられず、自分なりに試みた多色刷り木版画にも納得できませんでした。そこで木版画家の黒崎彰の助言のもと、伝統木版にたずさわる職人を訪ね、各地をまわって日本文化の理解に努め、約4年の日本滞在の間に3組の木版画集を制作しました。

本作品はその最初のもので、李白の詩「旧遊を憶い譙郡元参軍に寄するの詩」をエズラ・パウンドが英訳した「追放者の手紙」に想を得た木版画集。繊細にからみあう白と黒の表現は、中国の伝統工芸である剪纸を連想させなくもありません。何千里も離れて暮らす友に、遠い日の楽しかった思い出を書き送るこの詩を主題に、のちにはエッチング作品も制作しています。

25 虎と龍

Tiger and Dragon

1969年頃 木版 410×410

26 『蘭』

Orchid

1972年 エッチング、アクアチント

315×255（紙） 全14点

日本滞在中に制作された銅版画による作品集。シュールでエロティックな表現は、師ヴァンダーリッヒの影響を強く感じさせます。版画集としての刊行年は1972年ですが、各作品の制作年には1969～72年と幅があり、いくつものステートを重ねるうちに版のサイズまで変えてしまったと推測される作品がある一方で、線描を活かしたシンプルな表現の作品もみられます。版画集としてまとめられるまでにどのような経過があったのでしょうか。初版は東京で出版され、1982年にはキャンペラで第2版が刊行されています。

27 『銅版画技法集』

Nine Examples of Intaglio Technique

1976年 銅版画各種 123×78 全10点

エングレーヴィングやエッチングなど、銅版画の技法を紹介する作品集。案内役の女性は、シュマイサーが敬愛する画家アルブレヒト・デューラーの銅版画に登場するエヴァです。エングレーヴィングはビュラン、ドライポイントはニードル、エッチングは腐蝕液のはいった瓶と、それぞれの技法制作に用いられる道具を手にしたユーモラスな姿で描かれています。

28 カンポ広場、シエナ

Il Campo, Siena

1983年 エッチング、アクアチント、ソフト
グランドエッチング 450×600

29 テイクセ

Tiksey

1985年 エッチング、アクアチント、ソフト
グランドエッチング 600×840

30 プクタル

Phuktal

1985 年 エッチング、アクアチント、ソフト
グランドエッチング 455×780

31 断片、迷路と曼荼羅

Fragments, Maze and Mandala

1987 年 エッチング、アクアチント、ディー
プエッチング 605×600

イタリアの古都シエナ、インド北部の山岳地帯ラダ
ックなど、シュマイサーは長い歴史と文化をもつ地
を好んで作品に描きました。

標高 3,000m を越えるヒマラヤ山麓の地ラダック
は、国境紛争のため 1974 年まで外国人の入境が許
されず、チベットの古い文化が残されていました。
シュマイサーはケルン東洋美術館の依頼で 1984 年
にこの地を訪れ、6 週間をかけほぼ徒歩で取材して
巡りました。ティクセとプクタルはチベット仏教の
僧院（ゴンパ）で、そびえたつ岩山にへばりつくよ
うに建てられています。

《断片、迷路と曼荼羅》（作品 31）にはエルサレ
ム、奈良、カジュラホ（インド）、北京などが描き
こまれています。オーストラリア移住後、その目は
自然にも向けられましたが、そこにもやはりアポリ
ジニ文化への関心をみることができます。

32 イルパラ海岸のかけら：蜃気楼

Beachbits from Yilpara. Looming

2011 年 エッチング、ソフトグランドエッチ
ング、アクアチント、ドライポイント、水彩、
グワッシュ、鉛筆 860×585

33 〔兵馬俑〕

[Qin Figure]

1981 年 リトグラフ（多色） 302×184

34 南部の山

Mountains in the South

1981 年 リトグラフ 517×690

35 秦の兵馬俑

Qin Figure

1982 年 リトグラフ 515×685

36 故宮の門

Entrance to the Forbidden City

1982 年 リトグラフ 495×620

37 日記とピルバラ

Diary and Pilbara

1980 年 エッチング、アクアチント、フォト
エッチング 450×600

38 日記と氷山

Diary and Icebergs

1998 年 エッチング、アクアチント
498×615

39 『ビッグ・チェンジズ』

Big Changes

2002–2003 年 アクアチント

505×545 全 7 点

1998 年 1 月、シュマイサーは南極を訪れました。
オーストラリアを出港して 10 日、観測船から初め
て目にした氷山は、大きさもそこまでの距離すらも
分かりませんでした。これまで描くことで世界を把
握してきた彼は、文明の及ばないこの地では、今ま
で使ってきた尺度が通用しないことに衝撃を受けま
した。こののち、雪や氷、そして水の状態それ自体
を表現する方法を模索し、日本の水墨画にもその手
がかりを求めることになります。

《日記と氷山》（作品 38）は現地で直接スケッチ
した銅版を帰国後エッチングに仕上げた作品。『ビ
ッグ・チェンジズ』（作品 39）は氷山が崩壊する過
程を描いた連作。7 点はすべて同じ 1 枚の版から刷
られており、版に手を加えステートを重ねるにつ
れ、画中の氷山の状態も変化していきます。

24～39 敬子シュマイサー氏より寄贈

町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

Tel. 042-726-2771

<http://hanga-museum.jp/>

2021 年 1 月 5 日発行

この冊子は 3000 部作成し、1 部あたりの単価
は 40 円です（職員人件費を含みます）。